

○ 緊急被ばく医療処置訓練見学会への参加

「緊急被ばく医療関連情報連絡会」が平成30年度活動の一環として主催する緊急被ばく医療処置訓練見学会が以下のとおり開催された。同連絡会からの協力要請を受け、協定加盟事業所へ参加者を募り、緊急被ばく医療処置訓練見学会に参加した。

〔開催日時〕 平成31年2月21日（木） 13:15～16:25

〔見学場所〕 日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所
及び国立病院機構茨城東病院

〔参加者〕 9名/5事業所

〔訓練見学会概要〕

緊急被ばく医療処置訓練は、緊急被ばく医療に関する契約書に基づき実施する訓練である。今回は、日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所の研究施設（管理区域）において、作業中に作業者が負傷し、負傷箇所を含む身体の汚染（ α 線放出核種：Pu-239）が発生したとの想定に基づき訓練が行われた。

施設（管理区域）の除染室を模擬した医務棟除染室にて汚染負傷者の身体除染を行ったが、負傷部位周りは激痛から除染できず、汚染部位の養生、応急措置を行い、施設退域後に産業医、看護師等と研究所の救急車で医務棟に搬送した。負傷者は外部医療機関での処置が必要と判断され、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部の救急隊により国立病院機構茨城東病院に搬送され、汚染している部位の除染及び医療処置が行われた。

見学会参加者は、最初に核燃料サイクル工学研究所の研修合同棟で、同研究所の施設概要及び事業内容並びに今回の訓練の概要について説明等を受けた。そして、放射線保健室へ移動して肺モニタ、精密型全身カウンタ及び簡易型全身カウンタを見学した。続いて公設消防救急車の養生及び汚染負傷者の除染、応急措置、搬送等を見学した。その後、国立病院機構茨城東病院へ移動して、負傷者の汚染している部位の除染及び医療処置を見学した。



施設除染室を模擬した
医務棟除染室での処置



公設消防による救急搬送



医療機関での医療処置